

<「知るっば！久留米」 令和3年8月5日（木） 12：30～放送分>

## 久留米入城 400年 ～第1回～ 「有馬豊氏、久留米入城」

<ゲスト：久留米市文化財保護課 大塚麻理子>

坂本 MC（以下「坂本」）

「知るっば久留米」ナビゲーターの坂本豊信です。

8月は、『久留米入城400年』をテーマにお送りしていきます。ゲストはこの方です！

ゲスト：大塚さん(以下「大塚」)

久留米市文化財保護課 大塚麻理子です。よろしくお願いします。

坂本 今回からなんと9月まで、同じテーマで2か月9回シリーズでお送りします。

1回目は、『有馬豊氏(とようじ)、久留米入城』をテーマに様々なお話を伺います。

今年は新聞や広報紙に「久留米入城 400年」というキーワードがよく出てきます。

まずは、そこからお話しいただけますか。

大塚 江戸時代に約250年にわたって久留米の地を治めた大名が有馬氏です。

その初代藩主の有馬豊氏が1621年に久留米城に入城して、今年が400年の節目になります。

坂本 有馬豊氏は私も馴染みがあって、以前は似顔絵を描いたりしてご紹介したことがあるんです。

たしか、丹波の福知山から久留米にやってきた大名ですよ。

大塚 そうです。福知山8万石から久留米藩21万石へと大幅に加増されて久留米にやってきました。

福知山は現在の京都府ですから、ずいぶん遠くからきたものだと思いますね。

坂本 そもそも、なぜ有馬家はそんな遠いところから久留米へ入ってきたんでしょうか。

大塚 そしたら、まず有馬家のルーツからお話ししますね。

久留米藩主となる有馬家は、初代藩主・有馬豊氏の父、有馬則頼(のりより)を藩祖としています。

則頼は、羽柴秀吉に招かれて、戦で功績をあげて出世していきます。

坂本 羽柴秀吉、後の豊臣秀吉ですが、言わずと知れた天下人ですよ。

有馬則頼は、そんな名将のもとで活躍していたということですね。

大塚 そうなんです。

天正8(1580)年、則頼は織田信長の命による秀吉の毛利攻めに参加します。戦功として、今の神戸市北区にあたる播磨国(はりまのくに)淡河(おうご)の3200石を受け、のちに1万5000石に加増されます。則頼は、信長没後の後継者を決める清須会議というのがあるんですけども、豊臣秀吉の身辺警護を任されたほど信頼されていたと言われています。

坂本 則頼は、しっかり戦功、手柄をあげた上で、秀吉の深い信頼も得ていったわけですね。初代藩主となる、息子・豊氏はどうだったんでしょうか？

大塚 豊氏も同じく秀吉に仕えていまして、3000石から、文禄4(1595)年には3万石を与えられ、今の静岡県掛川市にある遠江国横須賀城に入りました。

坂本 なるほど。親子ともども、秀吉のもとで出世していったわけですね。それにしても3000石から3万石とは、えらい出世ですよ。

大塚 そうなんですよね。しかし、慶長3(1598)年に秀吉が亡くなります。その後は、父子とも豊臣家大老筆頭だった徳川家康に従っていくことになります。豊氏は家康の養女である蓮姫を正室に迎え、徳川家との結びつきをより深いものにしました。

坂本 今度は、天下統一を果たしたあの徳川家康に仕えることになるわけですね。次々と大物、名将に仕えて、そして血縁的な繋がりもしっかり確保しながら、その後、則頼・豊氏親子は、家康のもとでどんな戦功を残していくんでしょうか。

大塚 慶長5年(1600)年の関ヶ原合戦で、則頼と豊氏親子は、石田三成らの西軍に勝利します。そして、恩賞として、則頼は現在の神戸市有馬温泉あたりの摂津国有馬郡の2万石を与えられます。豊氏は加増されて6万石を得て、丹波国福知山城に入ることになります。則頼が慶長7(1602)年に亡くなると、豊氏がその遺領を継承して、最終的に豊氏は8万石を領することになります。

坂本 あの有名な天下分け目の関ヶ原合戦でも、親子そろって大きな手柄をあげていたんですね。合戦の布陣を見ると、有馬陣営は家康陣営のすぐ後ろに配置されていたんですよ。

大塚 そうです。この布陣からも、家康が有馬家に信頼を寄せていたことが伺えます。その後、豊氏は、慶長19(1614)年、歴史上でも重要な戦である、豊臣家の滅亡のきっかけとなった大坂冬の陣・夏の陣にも徳川方で参戦し、戦功をあげます。

坂本 大阪夏の陣は、私の記憶では1615年ですので、  
豊氏が久留米に入国した1620年にいよいよ近づいてきましたね。  
ここから、なぜ豊氏は藩主として久留米にやってくるようになったのかという話になってきますね。

大塚 まず、この時期の久留米を含む筑後一国は、田中家が統治していました。  
実は、田中家は後継ぎがおらず断絶してしまい、改易となってしまいました。  
そこで、家康から信頼を得ていた豊氏が、北筑後21万石に加増されて、  
久留米へやってくることになります。

坂本 8万石から21万石ということで、まさにとんとん拍子の大出世ですよ。

大塚 そうですね。  
以来、明治維新にいたる約250年の間、  
有馬家は徳川幕府の下、久留米藩を治めていくことになります。

坂本 ここから現在にいたる久留米の400年の歴史が始まるわけですね。  
さて、400年前の久留米のはじまりも気になるところですが、  
先程話題にあがった有馬家の前の田中家についても気になりますね。  
まだまだ、たくさんお聞きしたいのですが、時間となってしまいました。  
第2回は、そのあたりについて『その頃、久留米城は』というテーマでお届けします。  
お楽しみに。  
大塚さん、今日はどうもありがとうございました。